



北山田小だより



横浜市立北山田小学校
校長 滝川 尚美

「何かにはまってみる」

校長 滝川 尚美

39日ぶりに、学校が子どもたちの元気な声に満たされ、また、学校生活が始まりました。教室で、久しぶりに会う友達と夏休みの出来事を楽しそうに話す姿が目に見え、嬉しそうです。3年ぶりに行動制限のない夏休みでした。感染対策を取りながらではあったと思いますが、7月21日から始まった39日間の夏休み、たっぷり時間を使って、何かに没頭したり、思い出に残る体験をしたりできたのではないのでしょうか。

私は、上橋菜穂子さんの作品にはまり、「獣の奏者シリーズ」と「『守り人』シリーズ」を読みふけりました。物語にどっぷり入り、夢中になった、とても楽しい時間でした。上橋さんの文章はリズムがあり、読みやすく子どもたちにも人気です。そして何より作品の登場人物がとても個性豊かで魅力的です。物語なので様々な出来事が起こってくるのですが、その中にある軸がぶれない生き方や他者の尊厳を大切にしたいという思いに何より心惹かれます。とてもつまらないヒーローはいないけれど、登場人物たちの葛藤や決断に生きることの重みを感じたり、憧れの生き方を見付けたりできます。今回はまったシリーズのうち「獣の奏者」は、戦争が一つのテーマになっています。心に響く叙述がたくさんありました。終戦から77年を迎えた日本のことやロシアのウクライナ侵攻から半年経ってしまうことなどを思いながら、今起きていることにしっかり目を向けたいと思いたった夏休みでした。もし、ご興味がありましたら、手に取ってみてください。そして、読まれた方の感想もお聞かせください。

さて、皆さんはどんなお休みを過ごされたでしょうか。何に夢中になりましたか？好きなことに熱中していると、時間が経つのも忘れ、「いくらでもやっていたら」「もっとやっていたい」と思います。自分の好きなことに没頭するのは、幸せな時間です。そして、好きなことに夢中になれる力は、これから先いろいろなことに向けることができ、自分のもっている可能性を広げることにもつながります。NHKに「沼にハマってきいてみた」という番組がありますが、そこには、ラジオやサウナ、レーザークラフトなど様々なことにはまっている10代の子どもたちが登場します。本当に好きなことにとことん時間を使い、誰にもまねのできないスキルを披露しています。ちょっと古いけど、ナンバーワンじゃなくてオンリーワンです。

私たちは、「子どもたちの特性や関心に応じた教育をして、子どもたちの力を引き出したい」と願い子どもたちと日々向き合っています。これからの時代は、デジタル化を背景に技術革新が進み、世の中が今までと全く異なった景色になることでしょう。そういう時代に生きる子どもたちにとって大事なことは、「みんなと同じことができること」から「みんなと違うところ、違う得意の意味や価値」に変化していきます。まさに、「誰もやらないことにチャレンジする、オンリーワン」です。子どもたちには「好き」をふやしてほしいと思います。そして、それぞれの「好き」を追求し、得意を見付け、自分らしい生き方を見付けてほしいと思います。

夏休み明け、運動会に向けての活動も始まります。それぞれの夏休みを終えて、成長した子どもたち一人一人の「好き」や「得意」を育てる楽しい豊かな学びをつくっていきけるように努めてまいります。

最後に、ベネッセコーポレーションによる「小学生夏休み川柳2022」の優秀作品から何点かご紹介します。それぞれの夏休みの風景が目に見え、嬉しそうです。さて、北山田のみなさんは、どんな夏休みを過ごされましたか？

「推し優勝 眺めるだけで 熱中症」(千葉県・小6)

「絵日記の ネットが切れるの 第6波」(茨城県・小6)

「夏祭り 花火が照らす りんご飴」(福岡県・小6)

「最終日 めくりたくない カレンダー」(東京都・小5)